

腎性尿崩症について

病 名	病気の症状や対応について	難病の団体・HP
腎性尿崩症	<p>◇症状</p> <p>普通、腎臓は血液中の抗利尿ホルモンの濃度に合わせて尿の濃度調節を行っている。抗利尿ホルモンは下垂体によって分泌されるホルモンで、水を体内に保持して尿を濃縮するよう腎臓にシグナルを出す。腎性尿崩症では、腎臓が抗利尿ホルモンに反応せず、多量の薄い尿を排出し続ける。</p> <p>ひどくのどが渇いて水を多量に飲む多飲症と、多量の薄い尿が出る多尿症がみられる。遺伝性の腎性尿崩症の場合は、生後すぐに症状が出はじめる。乳児はのどの渇きを伝えることができないため、激しい脱水状態になることがあり、高熱に伴って嘔吐や発作が起こる。</p> <p>腎性尿崩症はすみやかに診断して治療しないと、脳がダメージを受け、乳児に永久的な精神遅滞が残ることがある。たびたび脱水症状を起こすと、身体的な発育も遅れる。治療をすれば、乳児は正常に発育する可能性が高くなる。</p> <p>臨床検査では血液中のナトリウム濃度が高く、尿が非常に薄いことが明らかになる。</p> <p>◇治療</p> <p>激しい脱水状態が生じる前に診断されれば、経過は良好である。成人の場合は、根本的な原因を見つけて治すことが、腎機能の回復に役立つ。</p> <p>脱水を防ぐには、のどの渇きを感じたらただちに十分な量の水を飲む必要がある。乳児や年少児の場合は、頻繁に水分を与える。十分な水分を摂取していれば脱水を起こすおそれはないが、水を数時間飲まずにいると重度の脱水状態になる。塩分を控えた食事が有効。非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）とサイアザイド系利尿薬がこの病気の治療に使われることがある。非ステロイド性抗炎症薬とサイアザイド系利尿薬はそれぞれ異なるメカニズムで作用するが、両方とも腎臓が再吸収するナトリウムと水分の量を増やし、それによって尿の排出量が少なくなる。腎性尿崩症では大半の場合抗利尿ホルモンにわずかながら反応するため、デスマプレシンという抗利尿ホルモンによく似た薬で尿量を減らすことができる。</p> <p>（万有製薬株式会社メルクママニュアル（医学書）家庭版より）</p>	<p>難病の団体・HP</p> <p>腎性尿崩症友の会 http://www.geocities.jp/BeautyCare-Venus/7094/index.html</p>